

H28 妙高西条農園たより NO. 3

平成28年6月20日 (6月号)

今年は例年より1週間ほど早く田植えを行い、その後の天候も晴れの暖かい日が続いたことから、稲の生育でも、稲丈が25cm、株本数も20本ほどに分けが進んだことから、中干しを6月12日から開始しました。

当農園では田植えの直後に雑草の駆除対策として、農林水産省の認可除草剤を1回だけ使用していますが、ノビエ、ホタルイ、オモダカ等の雑草はなかなか駆除できないことから、それ以上の除草剤を使わずに、人力にて圃場内の除草を行ってきました。

人力による圃場内の草取りは昔から重労働で、農作業の中でも最悪の作業でした。そんな中、今年の農機具店の店先で、刈り払い機の先端部を取り替えることで、圃場の水を張ったままで雑草の駆除ができる、アタッチメントをみつけ、使用してみました。これまでのアタッチメントより使いやすく効率よく雑草の除草ができましたので、照会してみます。

アタッチメント(裏側から)



圃場内の使用状況



上部の円盤がガードし苗を痛めない



アタッチメントの刃が5枚斜め縦方向に付いていて、雑草を刈り払うというより絡めて捻り切る方法であり、刈り払い機は低速回転でよいことから、水の抵抗も少なく、軽量の小型刈り払い機で十分作業ができました。

中干しと同時に行う江たて作業



江たて後の溝の状況



中干し効果としては・・・

- ・生育過剰無効分けつの防止
- ・稲丈を抑え、倒伏の防止
- ・土壌への酸素供給
- ・土壌深部へ根張り促進

江たて効果としては・・・

- ・迅速な冠水、落水が可能 (水管理のしやすさ)
 - ・収穫期の圃場面の地耐力強化で作業の容易さ
- 圃場ごとの条件を考慮し適正な中干しを行うことで、大きな効果が得られます。

刈り払い機を使つての畔刈り作業

今年も畔や農道等の除草には、除草剤を一切使わずに大小の刈り払い機を使用し行っています。

現在、田植え後2回目の除草を終了しましたが、天候にかかわらず雑草だけはよく成長し、近日中に3回目の除草作業を行わなければならない状況です。

先号でも述べましたが、今年の新潟の冬は極端に降雪量が少なく心配された水不足が現実のものとなってきました。当農園の水利条件は、妙高山、火打山、戸隠連山を源とする、1級河川の関川から取水する用水の上流部に位置していますので、

現在は水が足りないということはありませんが、関川の上流部にある、農業用水用の笹ヶ峰ダムの貯水量が例年になく少なくなってきたことから、県及び市では農業用水の適正使用について呼びかけを始めています。

今年5月の田植え時期からこれまで、例年になく暑い晴天の日と降水量の少ない日が続いていますので、中山間地の圃場では水不足が深刻になってきています。

● お米を利用いただいている皆様からの「感想、意見、要望」等を募集しています。よろしくお願い致します。



今年も定点観測を始めました



発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755
 妙高西条農園長 池田博子
 ☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908
 URL：http://www.kanta.jp E-mail：ikedata@kanta.jp